

篠原資明教授 業績一覧

(展覧会の企画・出品や各種委員については省略)

〈著書〉

☆単著

〔思想・詩論〕

1. 『漂流思考 バルクソン哲学と現代芸術』 弘文堂、1987 年／講談社学術文庫、1998 年
2. 『トランスアート装置』 思潮社、1991 年
3. 『トランスエステティーク 芸術の交通論』 岩波書店、1992 年
4. 『五感の芸術論』 未来社、1995 年
5. 『言の葉の交通論』 五柳書院、1995 年
6. 『心にひびく短詩の世界』 講談社現代新書、1996 年
7. 『ドゥルーズ ノマドロジー』（現代思想の冒険者たち）講談社、1997 年
8. 『エーコ 記号の時空』（現代思想の冒険者たち）講談社、1999 年
9. 『言霊ほぐし』 五柳書院、2001 年
10. 『まぶさび記 空海と生きる』 弘文堂（「生きる思想」シリーズ）、2002 年
11. 『バルクソン 〈あいだ〉の哲学の視点から』 岩波新書、2006 年
12. 『空海と日本思想』 岩波新書、2012 年
13. 『差異の王国 美学講義』 晃洋書房、2013 年
14. 『まず美にたずねよ』 岩波書店、2015 年

〔詩集〕

1. 『さい遊記』 1989 年、思潮社
2. 『サイ遊記』 1992 年、思潮社
3. 『わるびれ』 1994 年、思潮社
4. 『滝の書』 1995 年、思潮社
5. 超絶短詩集『物騒ぎ』 1996 年、七月堂
6. 超絶短詩集『水もの』 1996 年、七月堂
7. 『平安にしずく』 1997 年、思潮社
8. 超絶短詩集『桃数寄』 1998 年、七月堂
9. 超絶短詩集『摘み分け源氏』 1999 年、七月堂
10. 『愛のかたち』 2001 年、七月堂

11. 超絶短詩集『玉枝折り』2002年、七月堂
12. 超絶短詩集『百人一滝』2003年、七月堂
13. 『崩楽』2004年、私家版
14. 超絶短詩マンガラ『仏笑』2005年、私家版
15. 超絶短詩集『星しぶき』2007年、七月堂
16. 『ほう賽句集』2008年、七月堂
17. 詩集『空うみのあいだ』2009年、思潮社
18. 超絶短詩集『一』2013年、私家版（ポスター詩集）
19. 超絶短詩集『京の空には蕪村星』2015年、私家版（ポスター詩集）
20. 『雲』2015年、七月堂

☆共著・編著

1. 『芸術の線分たち フランス哲学横断』篠原資明編纂、昭和堂、1988年
2. 『トランスモダンの作法』今村仁司、鷺田清一、野家啓一、中岡成文各氏との共著、リプロポート、1992年
3. 『現代芸術の交通論 西洋と日本の間にさぐる』篠原資明編著、丸善、2005年
4. 『岩波講座 哲学』岩波書店（全15巻）、2008-09年、編集委員

〈論文〉

☆日本語論文

1. 「記憶と芸術：ベルクソン美学への接近」、『美学』30号3巻、1979年
2. 「芸術、その開かれと閉ざされ：ウンベルト・エーコと美学」、『研究紀要』（京都大学文学部美学美術史学研究室）2号、1981年
3. 「痕跡から結晶するもの：レヴィ＝ストロースと芸術」、『研究紀要』（京都大学文学部美学美術史学研究室）4号、1983年
4. 「ベルクソンの望遠鏡——差異の過剰からの芸術」、『理想』609号、1984年
5. 「解体からの戯れ——リオタールと芸術」、『理想』615号（フランスの哲学〈特集〉）、1984年
6. 「絵画、その構造と解体」『芸術論集』（大阪芸術大学文芸学科）創刊号、1984年
7. 「芸術記号論——エーコによる試み」、『講座美学3』、東大出版会、1984年
8. 「構造主義・ポスト構造主義——痕跡過剰性から」、『理想』620号、1985年
9. 「構造主義・ポスト構造主義 - 2 - エクリチュールの過剰」、『理想』624号、1985年
10. 「構造主義・ポスト構造主義 - 3 - フィギュールの過剰」、『理想』626号、1985年

11. 「構造主義・ポスト構造主義 - 4 - メタフォールからメタモルフォーズへ - 1 - 」、『理想』624号、1985年
12. 「構造主義・ポスト構造主義 - 5 - メタフォールからメタモルフォーズへ - 2 - 」、『理想』629号、1985年
13. 「構造主義・ポスト構造主義 - 6 - リビドーの身体と器官なき身体」、『理想』633号、1986年
14. 「エーコの鏡像論 — 漂流するイマージュ・序説」、『現代思想』14巻7号（イタリアからのメッセージ〈特集〉）、1986年
15. 「作品とその外部」、『芸術論集』（大阪芸術大学文芸学科）2号、1986年
16. 「香りのなかの食 — 感覚の交通論から」、『現代思想』16巻11号（料理 — 食のエステティーク〈特集〉）、1988年
17. 「多様体の交通論 — ベルクソンと美学」、『芸術の線分たち』、昭和堂、1988年
18. 「エーコとTVの記号論」、『日伊文化研究』27号（ウンベルト・エーコ〈特集〉）、1989年
19. 「エーコと中世 — ベアトゥス論をめぐる」、『ユリイカ』21号6巻（エーコ — ベストセラー『薔薇の名前』はいかにして生まれたか）、1989年
20. 「芸術の交通論」、『美學』41号4巻、1991年
21. 「芸術とディスクール」、『講座 20世紀の芸術』8巻、岩波書店、1990年
22. 「ポスト構造主義 — ドゥルーズと芸術」、『講座 20世紀の芸術』9巻、岩波書店、1990年
23. 「ポストモダンと芸術」、『講座 20世紀の芸術』9巻、岩波書店、1990年
24. 「生死間の交通論」、『生きる論理・生きる倫理』、京都大学 学術出版会、1999年
25. 「足穂と未来思想」、『アヴァンギャルドの世紀』京都大学 学術出版会、2001年
26. 「反芸術の行方」、『20世紀の定義6 ゲームの世界』岩波書店、2002年
27. 「まぶさび系感覚論」、鷺田清一編『夢みる身体』岩波書店、2006年
28. 「クローチェ」、『哲学の歴史 10 危機の時代の哲学』、中央公論新社、2008年
29. 「総論 モダンとポストモダン」、『哲学の歴史 12 実存・構造・他者』、中央公論新社、2008年
30. 「あいだ哲学論考」、『いま〈哲学する〉ことへ』岩波講座哲学1、岩波書店、2008年
31. 「展望／芸術の生成をめぐる」、『芸術／創造性の哲学』、岩波講座哲学7巻、岩波書店、2008年
32. 「軟体構築論から見た華宵」、『大正イマジユリイ』大正イマジユリイ学会、4号、2009年

33. 「異交通装置としての芸術」、『Mobile Society Review 未来心理』NTT ドコモモバイル社会研究所、第15号、2009年
34. 「きれいさび・バロック・ポストモダン：風雅モダンへ」、『あいだ／生成』1号、2011年
35. 「まぶさび」報告書、京都大学大学院人間・環境学研究科、2011年
36. 「かわいいの構造」、『あいだ／生成』2号、2012年
37. 「奥の細道まぶさびヴァージョン」、『あいだ／生成』3号、2013年
38. 「建築の哲学：カッコ嬢との対話」、『あいだ／生成』4号、2014年
39. 「無常と絶対無：田辺元の哲学」、『あいだ／生成』5号、2015年

☆外国語論文

1. « Marges de l'homme et du langage », AESTHETICS, No.1, 1983 (フランス語)
2. « Communication et art », AESTHETICS, No. 6, 1994 (フランス語)
3. “Mother Teresa as Contemporary Philosophy: Rediscovering Bergson,” 『人・環フォーラム』記念号, 2001 (英語)

〈批評・エッセイ〉

1. 「超少女身辺宇宙——身辺性への偏愛に生きながら、偏狭さを抜け出た女性作家たち」、『美術手帖』566号（美術の超少女たち〈特集〉）、1986年
2. 「イタリアの静物画」、『読売新聞』大阪本社 1986年10月31日
3. 「フォンタナ」、『読売新聞』大阪本社、1986年11月26日
4. 「交通する多様体」、『イエス・アート／デラックス』佐賀町エキジビット・スペース+ギャラリー白、1987年
5. 「トランスアート装置」、「今日の立体」展、山口県立美術館、1987年
6. 「アート・リーディング——消滅のリタルダンド——河原温と書物」、『美術手帖』586号、1987年
7. 「マン・レイ」、「マン・レイ」展、児玉画廊、1987年
8. 「スーツ・ケースの中のヌーヴォーレアリストたち」、「ヌーヴォーレアリスム」展、児玉画廊、1987年
9. 「パラディーノ」、『美術手帖』、1987年8月号
10. 「ファイバーは自由間接話法で語る」、『美術手帖』591号（ファイバー・ウェブ——糸の発想、布の提案〈特集〉）、1987年
11. 「空気の芸術」、『CEL』4号、1987年
12. 「イタリア未来派の写真」、『A&C』1号、1987年
13. 「クネリス」、『A&C』2号、1987年
14. 「パオリーニ」、『A&C』4号、1987年

15. 「アートのある生活」1 - 4、『朝日新聞』大阪本社版にて連載、1988 年
16. 「メルツ」、『A&C』7 号、1988 年
17. 「メタリズムの断片・断章」、『A&C』8 号、1988 年
18. 「クッキ」、『イタリアーナ』17 号、1988 年
19. 「ファイバーとアートの間」、『KAWASHIMA』25 号、1988 年
20. 「ル・コルビュジエとクライアント」、『ユリイカ』臨時増刊号「ル・コルビュジエ」1988 年
21. 「ファイバーの無数線的想像力」、「アーキテクチュア」展、スパイラル・ガーデン、1988 年
22. 「イメージの空感装置」、「浮遊体」展、つかしんホール、1989 年
23. 「光の国の遊牧民たち」、『読賣新聞』大阪本社版、1989 年
24. 「アートのある生活」5 - 7、『朝日新聞』大阪本社版にて連載、1989 年
25. 「エドワード・ルッシュェ」、『現代詩手帖』1989 年 4 月号
26. 「横断する書」、「花とて別にはなきものなり」展、ギャラリー白い点、1989 年
27. 「アートとアームの間」、「ARMS——芸術の腕」展、ハイネケンビレッジ、1989 年
28. 「現代作家論 - 7 - 森村泰昌——時間を旅する身体」、『美術手帖』613 号、1989 年
29. 「現代アート進化論」、『VASO』0 号、モーリ・ギャラリー、1989 年
30. 「メタリズム」、「メタリズム」展、スパイラル・ガーデン、1989 年
31. 「交通装置としてのアートにイエスを」、『イエス・アート 8』、ギャラリー白、1989 年
32. 「トランスアート・マップ」、『ユリイカ』22 号 2 巻 (90 年代カルチュア・マップ〈総展望〉)、1990 年
33. 「2 人の M に」、白井美穂展カタログ、ヒルサイド・ギャラリー、1990 年
34. 「トランスコミックからトランスコミックへ」、『美術手帖』624 号 (キース・ヘリング追悼〈特集〉)、1990 年
35. 「メイプルソープと写真の内・外」、「ロバート・メイプルソープ」展、西武百貨店コンテンポラリー・アート・ギャラリー、1990 年
36. 「イメージ (との間) へ」、「荒川修作—宮川淳へ—展」、東高現代美術館、1990 年
37. 「毒と薬のトランスアート」、『ファルマコン'90』展、1990 年
38. 「コラボレーションの線分たち」、『美術手帖』634 号 (コラボレーティヴ・アート——共同制作美術の時代へ「ティーム・スピリット!」)、1991 年
39. 「世紀末のビヨンド」、「ビヨンド展」パンフレット、ギャラリー白、1991 年

40. 「椿昇 — シュワルツェネッガーとおうむ貝」、「ハイブリッド・ガーデン展」カタログ、ビギ・アート・スペース、1991 年
41. 「現代を担う作家たち - 12 - 森村泰昌 — 私の戦争機械」、『美術手帖』647 号、1991 年
42. 「消滅しつつある身体?」、「未来のクロニクル展」カタログ、メモリーズギャラリー、1991 年
43. 「水の手 — ジャベスに」、『現代誌手帖』35 号 6 巻、1991 年
44. 「アヴァンギャルド以降をめぐって — 実験はどこに存在するか」、『今日の音楽』1991 年 11 号
45. 「しゃれと香りと現代アート」、『毎日新聞』1991 年 11 月 1 日
46. 「メタリックな軟体構築」、中西學展カタログ、大阪府立現代美術センター、1992 年
47. 「透視展」企画、ギャラリーココ、及び「透視装置へ」、同展覧会パンフレット、1992 年
48. 「ポストモダン (3)」、『読売新聞』、1992 年 3 月 16 日
49. 「アートの翁童たちに」、池垣タダヒコ展カタログ、ギャラリー日鋳、1992 年
50. 「半開きのマシニズム」、谷口真紀展パンフレット、ギャラリーココ、1992 年
51. 「貝が真珠を作るとき」、『美術手帖』682 号、1994 年、pp. 216-219
52. 「フランチェスコ・クレメンテ — 吟遊画人の記憶と現在」、『美術手帖』697 号 (Foreign Artist)、1994 年
53. 「文字をめぐる思索と詩作」、『現代詩手帖』38 号 9 巻、1995 年
54. 「枠の効用」、『現代詩手帖』39 号 5 巻 (空間のドラマトゥルギー／詩の外出)、1996 年
55. 「翻訳をめぐる交通論的スケッチ」、『現代詩手帖』39 号 7 巻 (翻訳の詩学／アンリ・メシヨニック 〈特集〉)、1996 年
56. 「史上最短の詩型を求めて」、『本』22 巻 2 号、1997 年
57. 「笑・型・欠落」、『現代詩手帖』40 号 4 巻 (詩史の現在)、1997 年
58. 「超絶短詩と文字横断性」、『ユリイカ』30 号 6 巻 (特集「文字 — 西夏文字からデジタルフォントまで」)、1998 年
59. 「パウンドを書きつぐとすれば」、『現代詩手帖』41 号 9 巻 (特集「エズラ・パウンド — 詩的オデュッセウスの冒険」)、1998 年
60. 「文学と芸術における交通」、『國文學』43 号 10 巻 (特集「知のプロジェクト — 批評理論の転回」)、1998 年
61. 「エーコとドゥルーズをくぐり抜けて」、『本』24 巻 5 号、1999 年
62. 「現代思想としてのマザー・テレサ — バルクソン再発見」、『人・環フォーラム』

- 8号(特集「現代思想を斬る」)、2000年
- 63.「衣服と絵画」、『ドレスタディ』、37号、2000年
 - 64.「篠原資明の言葉の通り路」、『言語』29巻1-12号に連載、2000年
 - 65.「生成するマンダラとしての書物」、『季刊・本とコンピュータ』(「本とは何だろうか? (2) 〈特集〉」第2期2号、2001年
 - 66.「アートまぶさび亭」、産経新聞・大阪本社、2001年4月-2003年2月(隔月最終土曜日夕刊)
 - 67.「まぶさび庵の心敬」、『創文』439号、2002年
 - 68.「ホワイトヘッド」、『現代哲学がわかる。』アエラムック、朝日新聞社、2002年
 - 69.「足穂とタバコ宇宙」、『談』、別冊「shikohin world たばこ」、TASC、2002年
 - 70.「創作探訪」、日経新聞2002年12月1日
 - 71.「ダッシュと寂の間で」、『セブンアートプログラム・ジャーナル』セゾンアートプログラム・センター、10号、2003年
 - 72.連載「風雅の未来」、産経新聞・大阪本社、2003年5月-2004年3月(隔月・最終水曜日夕刊)
 - 73.「わたしと哲学」、『新版哲学がわかる。』アエラムック、朝日新聞社、2003年
 - 74.「連載時評(美術欄)」、2003年6月-、当月最終土曜日 京都新聞朝刊
 - 75.「人物点描」、共同通信配信により各地方紙の文化欄に掲載、2003年1月-3月
 - 76.「開かれた作品とウンベルト・エーコ」、『季刊インターコミュニケーション』NTT出版、47号、2004年
 - 77.「『泉』は『泉』ではない——マルセル・デュシャンの表題考」、『朝日新聞』2004年11月25日夕刊
 - 78.「ミメシスとコピーの間」、『美術手帖』美術出版社、2004年8月号
 - 79.「マンガと軟体構築」、『京都大学新聞』、12月16日号
 - 80.「展覧会の大ナマズ」、『鈴』鈴の会、第18号、2005年
 - 81.「方法詩は第三の選択肢」、『現代詩手帖』思潮社、2006年5月号
 - 82.「ベーコンと西脇順三郎」、『大航海』新書館、60号、2006年
 - 83.「花粉が教えてくれたこと」、『美術評論家連盟会報』7号、2006年
 - 84.「宇宙と風雅モダニズム」、『宇宙御絵図』豊田市美術館、2007年
 - 85.「衣服とフィギュアと軟体構築」、『図書』699号、2007年
 - 86.「さびしむゆえに成仏す」、『第42回高野山安居会講義録』高野山真言宗教学部、2007年
 - 87.「ベルクソンの現代的意義—あいだをめぐって」、『イリプス II nd』潞標、2号、2008年
 - 88.「タイルとファイバー・アートが出会ったとせよ」、『田村町』アート・インタ

ラクティヴ東京、5号、2008年

89. 「〈おもろい〉求めて三千年」、『大航海』70号、2009年
90. 「異交通装置としての芸術」、『Mobile society review』15号、2009年
91. 「風雅モダンの条件」、『人・環フォーラム』26号（「特集 都市論」）、2010年
92. 「現代作家紹介 シューコ・ワールドをめぐるカッコ氏との対話」、『美術フォーラム 21』28号、2013年
93. 「空海とともに生きる哲学」、『学会会報』2015年度第2号、2015年

〈詩篇〉

1. 詩篇「あり得たかもしれない音楽の滝」、『洪水』第3号、2009年
2. 詩篇「源氏虹絵巻」、『詩歌句年鑑 09』、北溟社、2009年
3. 詩篇「ブルーノの滝」、『現代詩年鑑 2010』、思潮社、2009年

〈翻訳〉

☆書籍（共訳含む）

1. 『開かれた作品』、ウンベルト・エーコ著、和田忠彦氏との共訳、青土社、1984年 / 新版 2011年
2. 『物語における読者』、ウンベルト・エーコ著、青土社、1993年 / 新版 2011年
3. 『20世紀美術家列伝』、エドワード・ルーシー＝スミス著、南雄介および上田高弘両氏との共訳、岩波書店、1995年
4. 『非人間的なもの 時間についての講話』、ジャン＝フランソワ・リオタール著、上村博および平芳幸浩両氏との共訳、叢書ユニベルシタス・法政大学出版局、2002年 / 新版 2010年

☆雑誌・カタログ（共訳含む）

1. 「実験期における哲学と絵画——ポスト・モダンの理念への寄与」、ジャン＝フランソワ・リオタール著（仏語）、篠原資明訳、『理想』608号（「知」の最前線〈特集〉）、1984年
2. 「上演の記号論」、ウンベルト・エーコ著（英語）、篠原資明訳、『ユリイカ』16号7巻（現代演劇の地平〈特集〉）、1984年
3. 「エネルギー態としての資本主義」ジャン＝フランソワ・リオタール著（仏語）、『現代思想』臨時増刊号（総特集 ドゥルーズ＝ガタリ 資本主義・欲望〈総特集〉）、1984年
4. 「アート・リーディング——視覚芸術の記号論のために」、ウンベルト・エーコ著（伊語）、篠原資明訳、『美術手帖』531号、同533号に2回に分けて連載、1984年
5. 「冷たいものと熱いもの——フロマンジェの連作「画家とモデル」をめぐる」、

- ジル・ドゥルーズ著（仏語）、篠原資明訳、『ユリイカ』17号10巻（フロマンジェ〈特集〉）、1985年
6. 「速度の美学——ジュール・ヴェルヌとマリネッティ」、ペール・ベルイマン著（仏語）、篠原資明訳、『ユリイカ』17号12巻（未来派——モダニズムの総決算〈特集〉）、1985年
 7. 「神話作用の記号学（ロラン・バルト）」、ウンベルト・エーコ+イザベルラ・ベッツイーニ著（仏語）、篠原資明訳、『現代詩手帖』28号14巻、1985年
 8. 「自らの実用論としての作品」、ジャン＝フランソワ・リオタール著（伊語）、『風の薔薇』4号（特集：ジャン＝フランソワ・リオタール）、1986年
 9. 「未来派の写真」、ジョヴァンニ・リスタ著（仏語）、『フォト・アヴァンギャルド』、コンテンポラリー・アート・ギャラリー、1986年
 10. 「未来派の写真創造」、ジョヴァンニ・リスタ著（仏語）、『イタリア未来派写真展』カタログ、兵庫県立近代美術館、1987年
 11. 「議論、あるいは「アウシュヴィッツ以降」文^{フラ}節すること」、ジャン＝フランソワ・リオタール著（仏語）、吉岡留美氏との共訳、『現代思想』15号13巻（アドルノ——モダニズムの往還〈特集〉）、1987年
 12. 「物語のなかの読者——「まさにパリらしいドラマ」をめぐる」、ウンベルト・エーコ著（伊語）、『ユリイカ』21号6巻（エーコ——ベストセラー『薔薇の名前』はいかにして生まれたか）
 13. 「まさにパリらしいドラマ」、アルフォンス・アレー著（仏語）、『ユリイカ』21号6巻（エーコ——ベストセラー『薔薇の名前』はいかにして生まれたか）、1989年
 14. 「エーコは聴く1・2 ルチアーノ・ベリオとの対話」（英語）、『今日の音楽』9 - 10号、1990年

〈対談・鼎談〉

1. 「流体と結晶——小さな物語たちのはんらん」（浅田彰氏、谷川渥氏との鼎談）、『理想』615号（フランスの哲学〈特集〉）、1984年
2. 「デリダの哲学」（丸山圭三郎氏、高橋允昭氏との鼎談）、『理想』618号、1984年
3. 「イタリアの思想と民衆の活力」（中村雄二郎氏、竹山博英氏との討議）、『現代思想』14巻7号（イタリアからのメッセージ〈特集〉）、1986年
4. 「野焼きへの進化」（西村恭子氏との対談）、『美術手帖』575号（クレイワークを語ろう〈特集〉）、1987年
5. 「マリオ・メルツ——羽衣の国で来日制作を語る」（マリオ・メルツ氏との対談）、

- 『美術手帖』 595 号、1988 年
6. 「コンテポラリーアートの現況」、(南條史生氏、萬木康博氏との鼎談)、『スパイラルブック』、1988 年
 7. 「テクノロジーと芸術の変容」(伊藤俊治氏、多木浩二氏、八束はじめ氏との討議)、『講座 20 世紀の芸術』 4、岩波書店、1989 年
 8. 「声の変容」(近藤譲氏、宮島達男氏との鼎談)、『今日の音楽』 8 号、1990 年
 9. 「芸術とディスクール」(阿部良雄氏、藤枝晃雄氏ほかとの討議)、『講座 20 世紀の芸術』 8、岩波書店、1990 年
 10. 「現代の思想と芸術」(ジャン＝フランソワ・リオタール氏、今村仁司氏、三島憲一氏との討議、『毎日新聞』 1991 年 4 月 30 日
 11. 「グラシアンをめぐる」(鈴木創士氏との対談)、『A&C』 18 号、1991 年
 12. 「間」(細川俊夫氏との対談)、『今日の音楽』 16 号、1992 年
 13. 「ドゥルーズとは誰か ― 遭遇と到来」(今村仁司氏との対談)、『現代思想』 24 号 1 巻 (ジル・ドゥルーズ 〈特集〉)、1996 年
 14. 「京阪神のアートシーン 1980 年代以降」(大田垣実氏、中井康之氏との鼎談)、『美術手帖』 754 号、1998 年
 15. 「ゲノムと哲学」(中村桂子氏との対談、高橋義人氏司会)、『人・環フォーラム』 10 号、2001 年
 16. 鼎談「人形」、『大正ロマン』、華宵会、第 33 号、2009 年
 17. 鼎談「新国誠一の視覚詩」、(城戸朱理、建畠哲各氏との鼎談)、『新国誠一の《具体詩》誌と美術のあいだに』、国立国際美術館、2009 年
 18. 「今日の方法芸術」、松井茂展「Camouflage」関連企画鼎談、パネリスト、AD&A gallery、2009 年
 19. 「京都から日本文化を発信する」(千住博氏との対談、間宮陽介氏司会)、『人・環フォーラム』 31 号、2012 年
 20. 「interview 篠原資明 進化論から即身成仏へ：空海とベルクソンにまぶさびの橋を架ける」(インタビュー (聞き手：池田康氏))、『洪水：詩と音楽のための』 15 号、2015 年

〈講演・口頭発表〉

1. 「持続の相の下に見た芸術」、美学会西部会 第 124 回研究発表会、1979 年
2. 「開の美学 ― エーコへの接近」、第 31 回美学会全国大会、1980 年
3. 「芸術作品をめぐるシンポジウム」、日本現象学会 第 6 回研究会、1984 年
4. 「表象＝再現機構と芸術」、日仏哲学会、1985 年
5. 「外部性の空間と時間」、日仏美術学会 第 30 回例会、1985 年

6. 「イマージュの交通論」、美学会西部会 第 159 回研究発表会、1986 年
7. シンポジウム「モビリティ —— 多様体の交通論」、21 世紀への自動車社会を考える会、セカンド・フォーラム、1989 年
8. 「映像とメディア」、日本映像学会 第 16 回大会、1990 年 6 月 2 日
9. シンポジウム「ニューメディアと芸術」、日本学術会議、1990 年 6 月 10 日
10. シンポジウム「世界の中の現代アート」、日本コンベンションセンター国際展示場・幕張メッセ、1990 年 7 月 28 日
11. 「芸術の交通論」、第 41 回美学会全国大会、1990 年
12. シンポジウム「現代芸術と社会」、第 41 回美学会全国大会、1990 年
13. 「アート・ナウをめぐる」、兵庫県立近代美術館、1990 年
14. シンポジウム「現代の思想と芸術」、『毎日新聞』主催、東京芸術劇場、1991 年 4 月 16 日
15. シンポジウム「今・絵画は」、川崎市市民ミュージアム、1991 年
16. シンポジウム、メモリーズギャラリー、1991 年
17. 「軟体構築と現代美術」、水戸芸術館、1992 年
18. 「墓としての作品をめぐる」、第 47 回美学会全国大会、1996 年
19. 「東京ーパリ： 世界文化首都の新世紀」、講演フォーラム、1999 年 9 月 17 日、パリ日本文化会館
20. 「シュルレアリスムと西脇順三郎およびその周辺」、セゾンアートプログラム・公開講座 2003 クリティカル・セッション・シリーズ 〈3〉「シュルレアリスム再考」第 2 回講演、2003 年 1 月 16 日、東京ウィメンズプラザ・ホール
21. 「短詩の魅力」、コスモス刊 50 周年記念大会記念講演、2003 年 5 月 24 日、京都・宝ヶ池プリンスホテル
22. 「空海との出会い」2003 年 6 月 15 日、善通寺
23. 「バルトと絵画的なもの」、日仏シンポジウム「多才の人、ロラン・バルト」、関西日仏学館、2004 年 1 月 24 日
24. 「短詩と風雅モダニズム」、第 120 回醍醐会、2004 年 10 月 31 日、京大会館
25. 「所有と異交通の主体」、美学会西部会第 252 回研究発表会・シンポジウム「芸術を巡る「欲望」と「所有」パネリスト講演、2005 年 3 月 5 日、九州大学
26. 「異交通と風雅モダニズム」、第 56 回美学会全国大会シンポジウム「美学の終焉、もしくは新たな〈学〉の要請」パネリスト講演、2005 年 10 月 9 日、慶応大学
27. 「美のはかなさ - 風雅論の試み」、平成 16 年度京都大学大学院人間・環境学研究所公開講座、『心と形・心の形』、2005 年 2 月 23 日
28. 「さびしむゆえに成仏す —— 空海間の哲学」、第 42 回高野山安居会、2006 年 7 月 26 日

29. 「軟体構築の美学」、2006 年 10 月 21 日、京都国立近代美術館
30. 「シンポジウム・パネリスト 3」、大正イマジュリィ学会、2008 年
31. 「芸術とは誰かが作るものなのか」、美学会全国大会シンポジウム『芸術は誰が作るのか』パネリスト講演、2008 年 10 月 13 日、同志社大学
32. パネリスト「現代詩の現在を語ろう、読もう、聞こう」、現代詩セミナー in 神戸、2008 年 11 月 2 日、神戸女子大学
33. 講演「きれいさび・バロック・ポストモダン」、京都大学大学院人間・環境学研究科主催、京都市・長浜市共催『第二回「風雅のまちづくり」国際シンポジウム』京都大学大学院人間・環境学研究科、2009 年
34. 「まぶさび、その理論と実践」、2010 年
35. 「かわいいの構造」美学会西部会第 278 回研究発表会、2010 年
36. 講演「ドゥルーズとデリダ」、財団法人日独文化研究所 2010 年度(春期)哲学講座(全 6 回、2010 年 5 月 19 日 - 6 月 30 日)、京都ドイツ文化センター
37. 「趣旨説明」、第 63 回美学会全国大会、シンポジウム「パンタ・レイ〈うつろい〉美学」、2012 年
38. 「イヴ・クラインと宇宙アート」、美学会共催シンポジウム「宇宙とアート」、2013 年 3 月 30 日

〈書評・展評〉

1. 【書評】「L・M・パーマー、H・S・ハリス編、『思考・行動・直観：ベネデット・クローチェの哲学に関するシンポジウム』, "Thought, Action and Intuition as a Symposium on the Philosophy of Benedetto Croce" Herausgegeben von L. M. Palmer und H. S. Harris, Georg Olms Verlag, Hildesheim・New York, 1975, 363S」、『美学』29 号 2 巻、1978 年
2. 【書評】「ウンベルト・エーコ、『読者の役割：テキスト記号学の研究』, Umberto Eco, The Role of the Reader - Explorations in the Semiotics of Texts, Indiana University Press, Bloomington & London, 1979, 273p.」、『美学』33 号 1 巻、1982 年
3. 【書評】「『文化としての時間』、E.T. ホール著、宇波彰訳、『季刊人類学』15 号 2 巻、1984 年
4. 【展評】「『美術手帖』展評（関西）」、『美術手帖』1984 年 6 - 8, 11, 12 月号
5. 【展評】「『美術手帖』展評（関西）」、『美術手帖』1985 年 1 - 7 月号
6. 【書評】「浅田彰『ヘルメスの音楽』」、『週刊読書人』5 月 20 日号、1985 年
7. 【展評】「『讀賣新聞』（大阪本社）展評」、1985 年から 1986 年にかけて随時掲載
8. 【書評】「上野千鶴子『構造主義の冒険』」、『週刊読書人』11 月 18 日号、1985 年
9. 【著作紹介】「ジャン・フランソワ・リオタール『ディスクール、フィギュール』、『現代思想』14 号 4 巻（未邦訳ブックガイド——現代思想の 22 冊〈特集〉）、

1986 年

10. 【書評】「谷川渥『形象と時間』」、『図書新聞』10月11日号、1986年
11. 【書評】「ジャン＝フランソワ・リオタール『ポストモダン通信』」（『週刊読書人』1月26日）
12. 【展評】「『A&C』（京都芸術短期大学・芸術文化研究所）展評」、『A&C』1 - 3号、1987年
13. 【書評】「ルイ・マラン『絵画の記号学』」、『美術手帖』580号、1987年
14. 【展評】「ミンモ・パラディノ — 記憶からの生成」、『美術手帖』584号、1987年
15. 【展評】「国立国際美術館「絵画 1977 - 87」展」、『朝日新聞』大阪本社 1987年10月31日
16. 【展評】「『A&C』展評」、『A&C』4 - 8号、1988年
17. 【書評】「ジャン＝フランソワ・リオタール『経験の殺戮』」、『現代詩手帖』11月号、1987年
18. 【展評】「つかしんホール「ダダと構成主義展」展」、『産経新聞』大阪本社、1988年11月24日
19. 【展評】「季刊『版画藝術』展評（関西）」、季刊『版画藝術』59 - 62号、1988年
20. 【書評】「上村忠男『ヴィーコの懐疑』」、『週刊読書人』10月3日号、1988年
21. 【展評】「『現代詩手帖』展評」、『現代詩手帖』1989年1 - 12月号
22. 【書評】「ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』」、『産経新聞』1990年3月20日
23. 【書評】「ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』」、『週刊読書人』4月2日号、1990年
24. 【書評】「クルツィオ・マラパルテ『壊れたヨーロッパ』」、『週刊読書人』3月4日号、1990年
25. 【展評】共同通信社・展評担当（1991年）
26. 【書評】「川端隆之『MIXED MEDIA』」、『現代詩手帖』12月号、1991年
27. 【書評】「佐々木健一『フランスを中心とする十八世紀美学史の研究 — ヴァトーからモーツァルトへ』」、『フランス哲学・思想研究』5号、2000年
28. 【書評】「ナタリー・エニック『ゴッホはなぜゴッホになったか』」、『週刊読書人』2005年6月3日号
29. 【書評】「谷川渥『美のバロキスム』」、『週間読書人』2007年3月30日号
30. 【書評】「高橋昭八郎『ペ／ージ論』」、『現代詩手帖』2009年7月号
31. 【書評】「岩成達也『みどり、その日々を過ぎて.』」、『イリプス II nd』第5号、2010年

（編集：吉松覚）